

シンガポール、小樽 雑感

東京小樽会 清水川 治二



6月末、金婚式を祝って家内とシンガポールへ4泊5日の旅をしてきた。30年ほど前に7年間駐在した経験があるが今回は10年ぶりの訪問だ。飛行機とホテルの手配は旅行社に依頼し他はフリーとした。懐かしいシヤングリホテルのガーデンウイングに荷を解き、翌日から早速行動を開始した。

まず最初に訪れたのは着任時住んでいた場所、道で出会った人に聞きながらようやく探し当てたがそこはすでに新しい住宅が立ち並び最早、昔の面影は無し。

午後は大好物だった肉骨茶（バクテイ、豚骨付きスープ）とドリアンに舌ずつみを打ち旅の目的50%達成。夜は当時P.W.D.（日本の国交省に相当）に勤務してたチャン氏が名門クリケットクラブへ招待してくれ我々の金婚式を祝ってくれた。彼の話によるとシンガポールを訪れる観光客やビジネスマンが毎年増加し、目下チャンギ国際空港ビルは第5ビルを計画中とか。（現在第4ビルを建設中）又、4年前にオープンしたカジノは競争原理に従い2か所同時オープンさせ2施設の年間営業利益2000億円を上げたそうだ。



シンガポール港を背景にして

翌日は、今人気の動物園とシンガポールの最大規模のホテル、マリナ・ベイ・サンズ（高さ200メートル、3棟のホテルタワー屋上にプールがある）を訪れ

た。動物園は日曜のせいもあってか子供連れの間で一杯だ。よく見ると動物と見物人との間が無く動物との一体感を感じさせてるのが人気の要因に思われた。マリナ・ベイ・サンズでは大勢のビジターを一気に屋上まで上げ商売にしていた。どのスポットへ行ってもごみ一つ無く気がいい。

帰国後、たまたまテレビで我が故郷小樽の銭函海岸の夏の家をどうするか紹介した番組を観た。海水浴場は目を覆いたくなるような汚れようで唾然とした。

やはり観光地に人を集めるにはまず綺麗にすること、そして、知恵と仕掛け。を考えていかなないと成功しないと痛感した。かつてマレーシアのマハテル元首相は、ルッククイストを提唱したが今や日本は、ルッククイストの時代がやってきたのではないか。

「貴重な体験」

ふるさとに感謝

東京ニセコ会 会長 穂山 貞夫



8月9日（日）、北海道ニセコ町Utsunomiyama「タ」が日ハム鎌ヶ谷スタジアムで開催された。本イベントは北海道日本ハムファイターズとニセコ町がパートナー協定の一環として広告活動や販促PRの展開を目的として今回初めてである。スタッフは19名で当会から4名お手伝いに参加した。ニセコ町関係者は午前8時から設営に当たり我々が着いた時はかなり設営が進んでいた。控室に手荷物を置き作業に加わり同時に昔の話や親戚関係の話で盛り上がりながら作業は進み、10時半に準備を終えた。本イベントのメインは午後1時から日ハム対巨人戦。席とりのためシートやカバンが入場口から球場を取り巻くように置かれていた。午前11時ニセコ町特産品の販売開始、午前11時30分入場開始と同時に先着500名様に

ニセコ町からのプレゼント、12時45分からセレモニーへと続いた。セレモニーは林副町長を先頭にニセコ町関係者がホームベース前に並び、林副町長の挨拶とニセコ町の宣伝がマイクを通じ球場内に流れた。同時にバックスクリーンのオーロラビジョンにはニセコ町の風景や温泉、特産品が大きく映し出された。その後両監督と両選手代表にニセコ町関係者から特産品を贈呈、そして林副町長の始球式で試合が開始された。4対3で涙を呑む結果となったが日ハム選手は将来を背負う選手ばかりだけに期待は大きい。日ハムスタッフの細心の気遣いに感心させられ、施設内のコントロールルーム（放送室）やプレスルーム、セレモニーで球場に立たせて貰うという貴重な体験は感謝の一日であった。

園田会長を団長とする、会員20名は6月5日6日の日程で余市町を訪問しました、町長への表敬訪問の後、NHKの連続TV小説「マッサン」の舞台となったニッカウキスキー工場の見学です、工場内は平日に拘らず賑わっていました。私達はマッサンのモデルでもある竹鶴政孝・リタご夫妻、そしてご子息で当会の名譽会長でした（故）竹鶴 威氏のお住まいに案内されました。居室に通された時には今、そこにおられる様な時空を越え

た感覚に感無量でした。夜には町の有志の方々との懇親会で更なる友好を深めました。翌日はロケ現場のリング公園、歴史を感じる福原漁場そしてジャンプ台へと向かい、少年少女が練習に励んでいるサマージャンプの実技を見学、かつてオリンピック金メダリストを輩出しているだけに期待されています。夢が現実となるのも近い事でしょう。少年少女にエールを送り、一路、神威岬へ車が進みますと海岸近くの海は、積丹ブルーと呼ばれる澄

ふるさと余市町を訪問して

東京余市会 副会長 山田 萬里子



た感覚に感無量でした。夜には町の有志の方々との懇親会で更なる友好を深めました。翌日はロケ現場のリング公園、歴史を感じる福原漁場そしてジャンプ台へと向かい、少年少女が練習に励んでいるサマージャンプの実技を見学、かつてオリンピック金メダリストを輩出しているだけに期待されています。夢が現実となるのも近い事でしょう。少年少女にエールを送り、一路、神威岬へ車が進みますと海岸近くの海は、積丹ブルーと呼ばれる澄

んだ青さに癒されました。岬では散策をし、磯の香漂う地元ならではの料理に満喫です。故郷から受けた沢山の「おもてなし」に感謝し、今後の繁栄を願い、暮れなずむ故郷を後にしました。



始球式を終え、日ハムマスコットカピバー君とマウンドを下りる林副町長